

# 仏様のおはなし新シリーズ第115集「再び会える世界」

御本山より「仏教こども新聞」が毎月発行されています。

何かの会議の折に資料として頂いたものですが、2018年2月号に目に留まつたお話がございましたのでご紹介致します。

「今月のことば」に(たけもと たかし)さんという方が『自分がいなくなつたらどうなるか、想像してみよう』という題でこどもさんへの法話を書かれておりました。二月の初めの頃を「大寒」(注一月二十日～二月三日頃)というそ�だ。一番寒い時期らしい。

窓の外は真っ暗で、たまに風の音がする。

(中略)

ストーブや布団が無い時代の人たちはどうしていたんだろう？  
寒さで凍えて死んだ人も、いたんだろうか？

人は死んだら、どうなるんだろう？  
いつたい死ぬってどうなることなんだろう？

ぼくもいつかは死ぬのかな？  
死んだらどこに行くのかな？

このまま眠つて、目が覚めない感じかな？

目が覚めたら朝だつた。ストーブは消えていた。

死ぬことは、お父さんやお母さんに聞いたやいけない気がする。

友だちも、こんな事考えるのかな？

もう少し、自分で想像してみよう。

と、ございました。

仏教をお示しくださいましたお釈迦様は、人々の苦しみは生・老・病・死の四つであると言われました。

限りある命を授かり、不思議なご縁にてこの世に人として生まれてきた私どもは、どんなに名残惜しくても、どんなに愛しい方がおられようと、私たちの世界には死という別れがござります。

日ごろ、阿弥陀様のみ教えをお聞かせ頂いてい  
る私どもは、死は単に別れではなく、「我にまかせ  
よ 必ず救う」の

阿弥陀様の願いの働きにより、阿弥陀様の国、お  
浄土に必ず生まれ仏果を得させて頂ける攝取不  
捨・浄土往生の願いをお聞かせにあづかつております。

先程の今月のことばの「死んだらどこに行くのかな？」と、もし皆様がこどもさんやお孫さんから尋ねられた時、「お浄土に往くんだよ、また仏さま同士として再会できるんだよ」としつかりお答え出来るように、ともにお聴聞をさせて頂きたいものです。

